



【感染症だより】

～胃腸炎について～

4月、5月と連続して胃腸炎がトップでした。保育園、幼稚園、小学校、成人でも胃腸炎が出ています。ほとんどがウイルス性で、伝染します。年長児は比較的スムーズに胃腸炎から回復しますが、乳児期は下痢が長引きやすく、保育園を休む期間が長くなりがちです。なぜ乳児の胃腸炎が長引きやすいかということ、赤ちゃんの腸が未熟なためです。赤ちゃんの腸内細菌叢が成熟してくるのはだいたい3歳位で、それまでは、胃腸炎にかかりやすい状態であると言えます。元の状態に戻るまでに数週間から数ヶ月かかることもあります。根本的な治療はありませんが、食事療法、整腸剤や、乳糖のっていないミルクを使って、腸の負担を軽減する治療を行います。登園の目安は、便が固まって来て3回くらいまでになり、本人の食欲が良好になったことです。何度か胃腸炎に罹っているうちに、次第に丈夫になります。乳児期は焦らずに治しましょう。

胃腸炎で特に気を付けたいのが、頻回の嘔吐や下痢による脱水症です。体内の水分が減少すると、血液の循環が悪くなり、ぐったりして意識が低下して来ます。そうならないために、制吐剤などを上手に使い、水分補給をしましょう。理想はOS-1 やアクアライトなどのイオン飲料が良いですが、味が嫌いで飲めない場合には、だし汁や、コンソメスープ、おもゆ、などを工夫して与えましょう。

～麻疹について（続報）～

3月下旬に沖縄で発生した麻疹は、6月11日に終息宣言が出ました。ほっと一安心かと思いきや、先月ベトナムから帰国した埼玉県男性から麻疹が検出されました。9日後に同じ病院にいた0歳児が麻疹と診断されましたが、その後6月12日現在は発生していません。2015年3月以降日本国内由来の発生はありませんが、海外からの持ち込み症例から感染する危険が常にあり、油断できない状況です。麻疹に免疫が無い0歳児（6ヵ月から接種可能）や、20-30歳代以上でワクチン接種が1回のみの方は予防接種を受けると良いでしょう。

表：5月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	169
2	溶連菌	68
3	咽アデノウイルス	18
4	ロタ胃腸炎	7
5	ノロ胃腸炎	4
6	水痘	1
7	アデノ胃腸炎	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4月から、**空き状況**をWebで確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意ください。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

文責： 清水マリ子

